2012年度4セメスター月曜4限専門セミナー 来海作成 2012.12.29

二つの土地の表からわかることのうち、評価できる事柄は、

【1世帯あたりの人数】【家族構成】【性別比】【平均年齢だけでなく人口動態】【仕事構成】【人口移動の程度】【地元の人の多さ】と判断。

そのうち自分は【性別比】【一世帯あたりの人数】【平均年齢】【人口動態】について調べた。

1. 性別比について→二つの土地に差がないと判断 ※1
2. 平均年齢→二つの土地に差がないと判断 ※2
3. 一世帯あたりの人数→二つの土地に差がないと判断 ※3
4. 人口動態→主にこれについて以下で見ていく。

手順としては、まず人口ピラミッドをそれぞれの土地について作成して、目立った変動を示したところについて、その原因を知るために更に男女別にした。

次に、年齢が経てば人数が少なくなるはずの人口ピラミッドで、増えたり、減り方が急だったり、男女で増減が逆になっているところを「不自然」として、その説明を行う。ただし、60歳以上についてはサンプル数が少ないためこの限りではない。

図3～6中に示した矢印を、不自然な動きをするものとして表現した。

以下で、それぞれの動きの原因を推測する。

1. 図3の20-24歳から25-29歳の変化について。

これは男性がほかの地域から移動してきたことが考えられる。というのも、男性の、Church Lawton出身(以下「CL出身」とする)率が、この時に下がっているからだ。(図7参照)

その理由としてはほかの地域から、炭鉱労働者もしくは農業労働者としてやってくることが考えられる。(図8参照)どちらの職種も、この時期に産業革命、農業革命によって拡大している業種である。

1. 図3の30-34歳から35-39歳の変化について。

1.と同様の説明が可能と考えられる。

1. 図3の35-39歳から40-44歳の変化について。

地元出身の割合は変わらないが、図8の炭鉱夫の数を見ると、それ以前に比べて大幅に減っている。炭鉱夫の労働環境は過酷なものなので、炭鉱夫の寿命が尽きてしまった可能性がある。加えてAlsagerの炭鉱夫3人とも34歳以下であることもこの説を補強する。環境が厳しいほかの業種でも同様のことが起こっていると考えられる。

1. 図4の10－14歳から15－19歳の変化について。

図9より、この年齢層以上の女性は地元外出身が多いことがわかる。そして、図10より、この年齢層だけ使用人の割合が高いので、CL出身の女性は使用人として地元から出ていると考えられる。使用人の割合が高まる一方学生の割合は減っているため、学生だった女性が使用人となると思われる。(CLの使用人は15人のうち14人が地元外出身だから、同様にCL出身の女性も地元外にでて働いていると考えられる。)

1. 図4の15-19歳から20-24歳の変化ついて。

この上昇は、結婚した女性がほかの土地からCLにやってくるものと考えられる。というのも、図10よりMARRIEDの女性が増えるのがこの時期に当たり、かつ既婚女性92人のうち75人が地元外出身であるため、結婚してCLにやってくる女性が多いからである。

1. 図4の20-24歳から25-29歳の変化について。

これは5.と同じ説明がつくと考えられる。

1. 図4の30‐34歳から35‐39歳の変化について。

これは、図10の注に示してあるが、偶然Church Lawtonに未婚で、独自で生計を立てている女性が入ってきたことと考えられる。つまり、人口が対して減らないこの時期に、外から入ってきたことによって人口が増えたということになる。

1. 図5の5-9歳から10-14歳の変化(増加)について。

これはその親世代(25～34歳)の、地元出身の割合が低くなっているので、親とともに入ってきたことが考えられる。(図11より)

1. 図5の25-29歳から30-34歳の変化(急な減少)について。

これは、男性がこの時期にかけて労働者として出て行ったことが考えられる。

というのも、図13より、ほかの年齢層と異なって、ここだけ地元出身の労働者が少なくなっているからだ。つまり、この年齢層の男性がこぞって外に行ってしまったため、人口が減ったものと考えられる。

1. 図6の10-14歳から15-19歳の変化(増加)について。

これは、女性が使用人としてほかの地域(CLのような)から入ってくる人のほうが多かった結果と考えられる。Church Lawtonの使用人が、15人のうち1人だけ地元出身のため、この層のほとんどが外に出ていくのに対して、Alsagerは22人のうち7人が地元出身であるから、地元から出ていく女性もいれば残る女性もいて、かつ外からも入ってくるため人口が増えると考えられる。

1. 図6の20-24歳から25-29歳の変化(急な減少)について。

これは結婚したことによって女性が地元外に出て行ったことが考えられる。その理由は、それ以前で使用人だった人の割合が急激に減って(妻になったと考えられる。 図14より) そして地元出身の女性の割合が下がっているため、地元女性が外に行って女性の数が減ったと考えられる。(図15より)

加えて、既婚女性49人のうち21人が地元出身(43％)であるが、これはChurch Lawtonの92人中17人(18％)よりも大幅に大きいため、結婚してAlsagerにやってくる女性は少ないものと思われる(CLが街、Alが村だから、前者の方が外から人が集まりやすい)

1. 図6の25-29歳から30-34歳の変化(急な減少)について

これは11.と同じ説明ができると思われる。(図14,15より)